売れる商品開発事業説明会/百年物語

[1]ギフトショー動向
[2]時代の、変革の方向性について
[3]これからのものづくりの視点
[4]百年物語が大切にする考え方
[5]これからの商品開発のテーマ
[6]百年物語 2023 開発テーマ

[1]ギフトショー動向

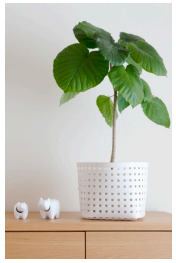
今年のギフトショーは、いろいろなテーマはありますが、「今売れる」雑貨感覚がメインです。ただし次代性のあるものも増えてきています。

1. sustenableからの見直し

既存商品を環境対応にする商品も多い。
しかし、環境対応はマイナスをゼロに近づけるだけで、商品の魅力にならないのが残念。

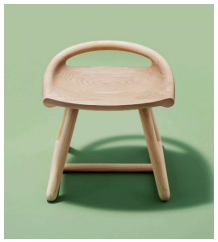
2. sustenableへの創造

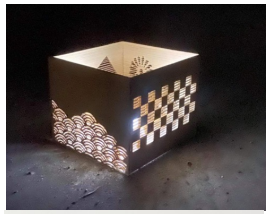
いくつかの商品は、環境対応から新しい商品を生み出していた。
この領域は今後さらに活発になると思える。
オーガニックスポンジや、食品廃材から作られたe-dish、折鶴再生やアップサイクルアクセサリー、植物由来のプラスチックなど。



3. 木の活用提案

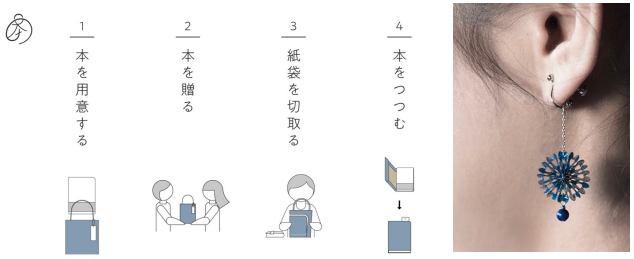
木をテーマにしたものは今年、極めて多かった。しかし、大半は、既存商品を木に置き換えたものであり、新しい価値＝商品の魅力が少ない。





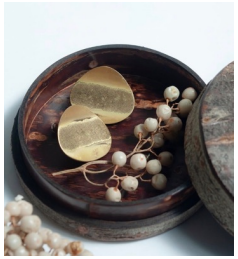
4. 紙の再発見

紙をテーマにしたものも多い。大半は和紙の活用の提案。また紙の使われ方提案もあった。和紙のユニフォームや紙のブロック、笹の和紙のタオルや靴下、紙のジュエリー、本を贈り、ブックカバーになるもの、紙の編み皿、和紙の文具など。



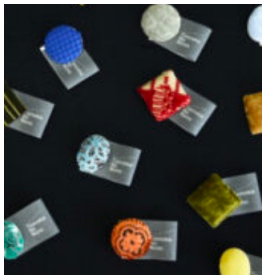
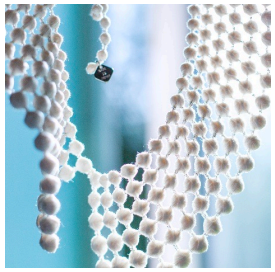
5. 和の価値づくり

和の価値づくりををテーマにしたものは、大半が既存商品に和感覚のデザインや素材を活用したものであり、新しい価値づくりのものが少なかった。
その中では、コサージュ感覚の飾り帯や、漆の新しい食器や酒器、唐紙のウォールデコレーション、履き物などが目についた。

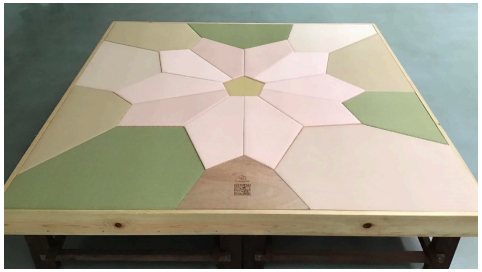


6. 産業の再生・次への挑戦

伝統産業などを新しい時代に再生していこうとする方向も増えた。
布や刺繍のアクセサリー化、精密加工のアクセサリー化、ファッションやインテリアへの展開など多様だが、まだ模索段階。

【予約】かやバルーンスリーブブラウス



7. レトロというトレンド

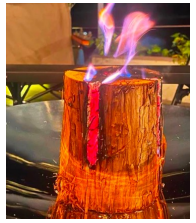
街中でもレトロがトレンドだが、その人気は根強いようだ。ガラスの復刻商品や機械やモノの楽しさをテーマにしたものがあった。

8. 花の演出・庭の楽しみ

生活に緑を取り入れるトレンドが花へと回帰したようだ。また、盆栽感覚のインテリアグリーンもテーマになっている。ただ、庭づくりはまだ商品が少ない。

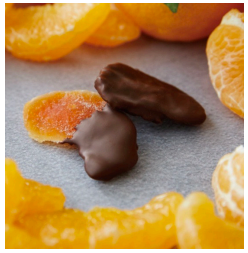
9. 生活圏の拡大

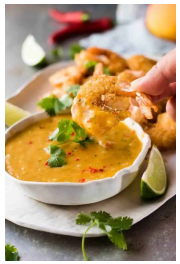
生活圏はアウトドアやリゾート、長期のインバウンドや田舎暮らし観光、高齢者施設、保育施設など、多様化している。しかし、商品開発は、アウトドアとサウナに特化していて、あまり広がりがない。



10. 食の楽しみ

食に関しては、楽しみ方がさらに広がり続けている。
メニューのエスニック性、和の食べ方の拡大、パーテい食など。このような動向が食器やカトラリー、キッチンツールへ影響してくる。





11. お茶の楽しみ

お茶をコーヒーのように、きちんと楽しむ方向が出てきている。

12. 一品ものや特注

大量生産ではなく、一品ものや特注、自分で作ることを売りにするところも増えてきた

13. 自然や山の恵みの開発

自然界機の中で、自然の恵みの商品化が進んでいる。
古来からの薬草を使ったコーヒー飲料や、竹製品と竹のアロマとディフューザー、吉野のヒノキのアロマチップ、鹿皮の活用、フルーツのアロマ化など、いろいろと広がってきている。まだ始まったばかりだが、そのうちにこのようなセレクトショップもできるかもしれない。

14. 生活再発見、モノのあり方や感性の挑戦-New

これまでとは少し異なるモノのあり方や、感性・考え方への挑戦、生活リノベーション提案など、次なるものも見えてきている。

■光るメモボード

■お手拭きぬいぐるみ

■おもちゃ感覚ブラシ

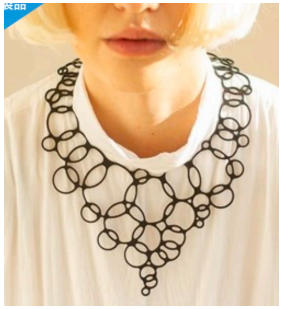
■緑の空気清浄機

■炭のプレート

■香りのアクセサリー

■タイルのアクセサリー

■ゴムのアクセサリー

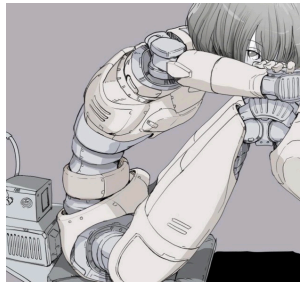


■創るアート
/生花感覚

14. 続き　生活再発見、モノのあり方や感性の挑戦

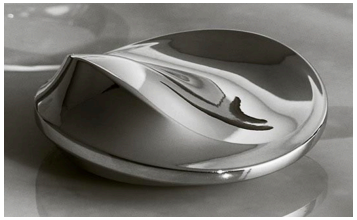
■方位磁石の遊び感覚

■ロボット感覚の二つの方向性



■逆さの砂時計

■美容器具も美しく



■タオルを身につける新・習慣

■寄り掛かる椅子

■食べながら切る、カトラリーのハサミ

■形状記憶の紙

■全てを手作りする木のキット

■手描き感覚再発見

■生活全体をリノベーションする提案

変革期の中で、産業の再生や自社の再位置付けなど、商品開発も激動期を迎えているようです。
この中で、考えていかなければなりません。皆が同じスタートラインに立っています。
今の激動期を単なる変化と考えるか、これからの未来を創る方向性、テーマがあると考えるか、で商品開発は大きく変わると思います。